

## 活動報告

# 全学FDワークショップ@工学部 キャンパス報告

## —大学教育における課題の解決に向けて—

上野俊吉\*, 齋藤俊克, 杉浦隆次, 四方潤一

日本大学工学部

### Report on the FD Workshop @ College of Engineering

Shunkichi UENO, Toshikatsu SAITO, Ryuji SUGIURA, Jun-ichi SHIKATA

College of Engineering, Nihon University

First “FD workshop @ Campus” for college of engineering was held on August 27, 2019 at Koriyama. This workshop was conducted as the faculty development project of Nihon University. The aim of this workshop was cultivation of a task force of faculty developer “FDer” in Koriyama Campus. The theme of this workshop was “Solving the Problem on Education Program in University”.

キーワード：FDワークショップ, FDer, 初年次教育, 日本大学教育憲章, 日本大学マインド

#### Keywords:

FD workshop, FDer, Freshman Education, Nihon University Educational Charter

### はじめに

本稿では、令和元年8月27日（火）に工学部本館において実施した“第1回全学FDワークショップ@工学部キャンパス”について報告する。本ワークショップでは、“大学教育における課題の解決に向けて”というテーマの下に、KJ法・二次元展開法、学修目標、学修方略、学修評価について、それぞれ説明が行われたのち、グループ討議により意見をまとめ、その内容を発表して討議する形式で進めた。タスクフォースは、全学FDワークショップに参加経験のある4名の教員で構成し、事前の打ち合わせ及び全学FD委員会プログラムワーキンググループの先生方との打合せを行い、内容を検討した上で、ワークショップの準備・運営に臨んだ。また、参加者及びタスクフォースは、事前学修として立命館大学の「実践的FDプログラムオンデマンド講義」を視聴し、ワークショップに臨んだ。ワークショップは、本学部6学科（土木工・建築・機械工・電気電子工・生命応用化・情報工）に総合教育を加えた専任教員15名、タスクフォース4名、オブザーバー3名で進めた。本来、2日間かけて行うワークショップであるが、1日に凝縮したため、グループ討議の時間を十分に確保することができなかった。学修目標に関するグループ討議では、前のセッションで議論した内容を修正し、かつ、学修目標について内容を討議するための時間が少なく、十分にまとめることができない状況が生じたことは否めない。しかし、最終的には、テーマに即した内容で各グループが各セ

\*E-mail: ueno.shunkichi@nihon-u.ac.jp

投稿：2019年11月29日 受理：2020年1月23日

セッションの修正と最終的な学修評価をまとめることができた。

日本大学教育憲章及び日本大学マインドを踏まえた新しいカリキュラム編成や毎年の授業改善を行う際に、すべての教員がスムーズに学修目標、学修方略、学修評価を立案できるように、可能な限り多くの教員がFDerとなり、全教員間で共通の理解が得られるようなワークショップを目指す必要がある。今後、全学FDワークショップ@工学部キャンパスを開催するにあたって、今回の“第1回全学FDワークショップ@工学部キャンパス”の内容と反省点を記録し、来年度以降に開催される“全学FDワークショップ@工学部キャンパス”実施に活かしていくことを目的に本稿を記す。

## 1 工学部・全学FDワークショップ実施概要

### ① 当日までの準備

“全学FDワークショップ@工学部キャンパス”の開催について、平成29年度の段階で次年度以降に実施されることが工学部FD委員会により協議され、各学科に伝達されていたことから、全学FDワークショップに参加経験のある教員を始め、全教員の、ある程度の理解と認識は事前に形成されていた。

工学部FD委員会により“全学FDワークショップ@工学部キャンパス2019”開催の実施要項がまとめられ、「大学教育における課題の解決に向けて一教育能力の開発（Faculty Development）を企画・運営できる人材の育成」のテーマが設定され、開催の趣旨が明らかにされた（Appendix 1）。開催の趣旨はサブテーマが示すとおりである。

開催要項が決定されたのち、全学FDワークショップに参加経験のある教員からタスクフォースのメンバーを決定した。令和元年6月24日に、タスクフォースと教務課でワークショップの進め方及び担当・役割分担について打ち合わせを行った。タスクフォースは各々が担当する内容について、全学FDワークショップの動画を参考にしながら、説明内容の確認と時間調整、及び当日に使用するスライドの修正を行ったうえで、令和元年8月5日に、全学FD委員会プログラムワーキンググループからの派遣教職員（短期大学部船橋校舎 佐藤秀人教授、危機管理学部 山添謙准教授、佐賀友美学務課員）を交えて、説明内容を確認するとともに、ワークショップの進め方と留意点について綿密な打ち合わせを行った。

その時点で、ワークショップに参加するメンバーが決定（Table 1）し、参加教員は、ワークショップ当日までに事前学修として立命館大学の「実践的FDプログラムオンデマンド講義」を視聴し、当日に臨んだ。また、実施スケジュール（Appendix 2）についても、その時点で決定した。

### ② ワークショップ当日

タスクフォースを務める教員は、令和元年8月5日の事前打合せで内容と時間を確認して説明できるように準備していたため、実施スケジュール（Appendix 2）とおりに説明を進めることができた。

各グループの討議の際には、タスクフォースの教員が各グループに付き、討議がスムーズに進むように適時アドバイスをした。KJ法や二次元展開法は、すでに工学部では一部の初年次教育で導入されており、また、ワークショップに参加し、一般的なワークショップの進め方について理解している教員が一定数いたことから、大きな混乱はなく、KJ法・二次元展開法によるグループ討議が行われた。討議した内容の発表をグループごとに行い、次の学修目標に関しての説明に移った。学修目標でもグループ討議が行われ、その討議内容をまとめる必要があったが、その際に、KJ法・二次元展開法でまとめた内容を見直す時間が少し不足した。討議と発表の時間が短かったため、内容の見直しと修正の方向性が不明瞭になるケースがあった。

その後の学修方略と学修評価のセッションにおいてもグループ討議の時間が不足したと考えられるが、段

## Appendix 1 全学FDワークショップ@工学部キャンパスの開催実施要項

## 全学FDワークショップ@工学部キャンパス 2019 開催要項

F D 委 員 会

**1 趣 旨**

日本大学の使命の1つとして、高度で質の良い教育・研究を追及・提供・推進することを通じて、日本大学教育憲章に基づく人間像の養成を目指し、社会に貢献していくことがあげられます。また、社会の急速な変化により生じた新しい要請・ニーズに応えるべく教育・研修の改善・充実が求められています。

工学部では、授業評価アンケートやその結果に基づいた授業自己点検を実施することで教育の質の改善を行っています。その活動に加え、今年度から、授業改善、カリキュラム改善及び組織整備を目的としたFDを企画・実施できる人材を養成するために、より効果が期待できるワークショップを実施いたします。

**2 テーマ**

「大学教育における課題の解決にむけて

－教育能力の開発（Faculty Development）を企画・運営できる人材の育成－

**3 一般目標**

大学教育における諸問題の解決を推進するために、カリキュラム開発能力を発展させる基本的な教育技法とFDを企画・運営できる能力を修得し、生涯にわたる教育への関心を継続させ、ワークショップを展開することができるようにする。

**4 行動目標**

- ① 望ましい教育の原理・在り方を説明できる。
- ② カリキュラム立案の手順を説明できる。
- ③ 社会のニーズに配慮した教育の在り方を示すことができる。
- ④ ニーズからの確かな学習目標を立案できる。
- ⑤ 効果的な学習方法を立案できる。
- ⑥ 適切な評価法を立案できる。
- ⑦ 効果的な教育法を実践できる。
- ⑧ 教育とその改善に積極的に関与できる。
- ⑨ FDを企画・運営できる。
- ⑩ 教職員が協働してカリキュラムを検討し、企画・運営できる。

Table 1 全学FDワークショップ@工学部キャンパスの参加者

【参加者】

所属	氏名	資格・役職	グループ
土木工学科	笠野 英行	准教授	A
土木工学科	手塚 公裕	准教授	B
建築学科	森山 修治	教授	C
建築学科	山田 義文	専任講師	A
機械工学科	プラムディタ ジョナス	准教授	B
機械工学科	田中 三郎	専任講師	C
電気電子工学科	西田 豪	准教授	A
電気電子工学科	石川 瑞恵	専任講師	B
生命応用化学科	齋藤 義雄	准教授	C
生命応用化学科	平野 展孝	准教授	A
情報工学科	加瀬澤 正	教授	B
情報工学科	若林 裕之	教授	C
総合教育	中島 唯仁	准教授	A
総合教育	赤石 恵一	准教授	B
総合教育	野田 工	教授	C

以上 15名

【タスクフォース】

所属	氏名	資格・役職
建築学科	齋藤 俊克	准教授
機械工学科	杉浦 隆次	准教授
電気電子工学科	四方 潤一	准教授
生命応用化学科	上野 俊吉	教授

【協力, オブザーバー】

所属	氏名	資格・役職
短期大学部船橋校舎	佐藤 秀人	教授
危機管理学部	山添 謙	准教授
学務課	佐賀 友美	主事補

【企画, 運営】

所属	氏名	資格・役職
生命応用化学科	根本 修克	教授・学務担当
建築学科	浦部 智義	教授・学務委員会副委員長
教務課	真船 守人	参事補・教務課長
教務課	小野寺 隆幸	主事・教務課主任
教務課	秦 雅	
教務課	横田 大輔	

## Appendix 2 全学FDワークショップ@工学部キャンパスのスケジュール

時刻	内 容	時間配分
9:45-10:00	受付	
10:00	開会式 挨拶【学部長】 集合写真撮影 ワークショップの進め方	5分 10分
10:15	【KJ法・二次元展開法】 設定された科目の問題点 説明 グループ討議 〔発表〕(発表6分質疑5分×3班)+2分	25分 60分 35分
12:15	休憩	10分
12:25	【学修目標】 説明 グループ討議【昼食】 〔発表〕(発表4分質疑4分×3班)+2分	20分 50分 26分
14:11	【学修方略】 説明 グループ討議	15分 50分
15:16	休憩 〔発表〕(発表6分質疑4分×3班)+2分	10分 32分
15:58	【学修評価】 説明 グループ討議 〔発表〕(発表8分質疑4分×3班)+2分	20分 50分 38分
17:46	閉会式 修了証授与	

階を経るごとに前のセッションでまとめた内容の見直しがスムーズに行われるようになった。最終的に学修評価についてのグループ討議の内容発表では、本ワークショップの目的である“教育能力の開発（Faculty Development）を企画・運営できる人材の育成”が達成されたと実感させられる内容となった。各グループの討議の様子及び各グループが内容をまとめる途中段階の風景を写真1～3に示す（Figures 1-3）。



写真1 KJ法・二次元展開法説明後のグループディスカッションの風景



写真2 学修目標説明後のグループディスカッションの風景



写真3 学修評価説明後のグループディスカッションの風景

## 2 各グループのプロダクト概要

各グループのプロダクトとして学修目標を以下に示す。各グループともに、初年次教育を念頭に、日本大学教育憲章及び日本大学マインドを踏まえたコースとして、「自主創造型パーソン養成コース」に対して魅力的なユニット（科目）を設定し、かつ具体的なカリキュラムを組むことができた。

### A 班

ユニット：キャリアアップラーニング

一般目標：専門学科に関連する業界で活躍するために、学科に関連する職種を理解し、学生が自己の学修計画を立案し、自主的に学習する態度を身につける。

行動目標：①自身の学科に関連する業種を列挙する。	知識・想起
②自身の興味のある職種について述べる。	知識・解釈
③自身の学科の専門科目と職種との関連性を説明する。	知識・問題解決
④自身で履修科目を選択する。	態度・反応
⑤自身で大学での学習計画を立てる。	技能・コントロール

### B 班

ユニット：将来設計入門

一般目標：将来設計につながる学修意欲を向上させるために、自分自身を理解し、行動計画を立て、その達成手段を確立し、継続的な挑戦力を修得する。

行動目標：①様々な成功例から将来設計の重要性を述べるができる。	知識・想起
②自分の将来イメージを説明することができる。	知識・解釈
③目標達成のための必要なスキルを形成することができる。	技能・コントロール
④短期、中期、長期の行動計画を立てることができる。	技能・自動化
⑤短期の行動計画を実行することができる。	習慣・受け入れ
⑥グループワークを通して客観的に自己評価することができる。	態度・反応

### C 班

ユニット：地球を救おう

一般目標：地球環境問題を改善するために、各分野の直面する問題点を理解し身近な環境を測定し、技術者としての倫理観を修得する。

行動目標：①世界の地球環境問題の具体例を知る。	知識・想起
②日本国内の地球環境問題の具体例を知る。	知識・想起
③地球環境問題の分野毎の解決についての技術を知る。	知識・想起
④地球環境問題に関するディスカッションをする。	態度・受け入れ
⑤発展途上国の地球環境問題の対策を知る。	知識・解釈
⑥発展途上国の技術力で採用できる対策を検討する。	態度・受け入れ
⑦身近な環境を計測する。	技能・模倣
⑧環境に関するデータを解析し評価する。	技能・模倣
⑨授業で得た知識や技能をもとにプレゼンテーションを通じて環境問題に配慮する。	態度・反応

## むすびに

今回、全学FDワークショップ@工学部キャンパスが初めて開催され、目的に沿った成果（教育能力の開発（Faculty Development）を企画・運営できる人材の育成）が得られた。学部内で共通の理解と認識を全教員が持つことができるよう、今後も本ワークショップを続ける必要があると考えられる。参加者全員の自信に満ちた集合写真（写真4）を最後に示す。今回のワークショップでは、グループ討議の時間が不足していたことが、今後の改善点である。



写真4 ワークショップ参加者の集合写真